

# 研究開発 課題名

# 特異な才能を発見・開発・開花する イノベーション人材の育成システムの構築と自走化

## 研究テーマ2

高度な専門性と獨創性・創造性に富んだ  
人材育成のための高大接続研究

**産官学連携による  
SSH事業自走化プログラムの開発**

生徒の課題研究と熊本の現有資源(施設, 組織, 人材, 産官学民の力と知恵)とを有機的に組み合わせ、イノベーションを起こしKSCを通じて世界へ発信する。全国・海外の高校・大学・企業と共同研究を行うためのマッチングも進める。

**崇城大学とKSCによる  
高大接続プログラムの開発**

科学技術人材像や資質・能力について崇城大学及びKSCで共通理解を形成し、それに基づく育成・評価方法を共同で開発する。

**自然・健康・文化・サイエンス熊本構想の実現に向けた取組**

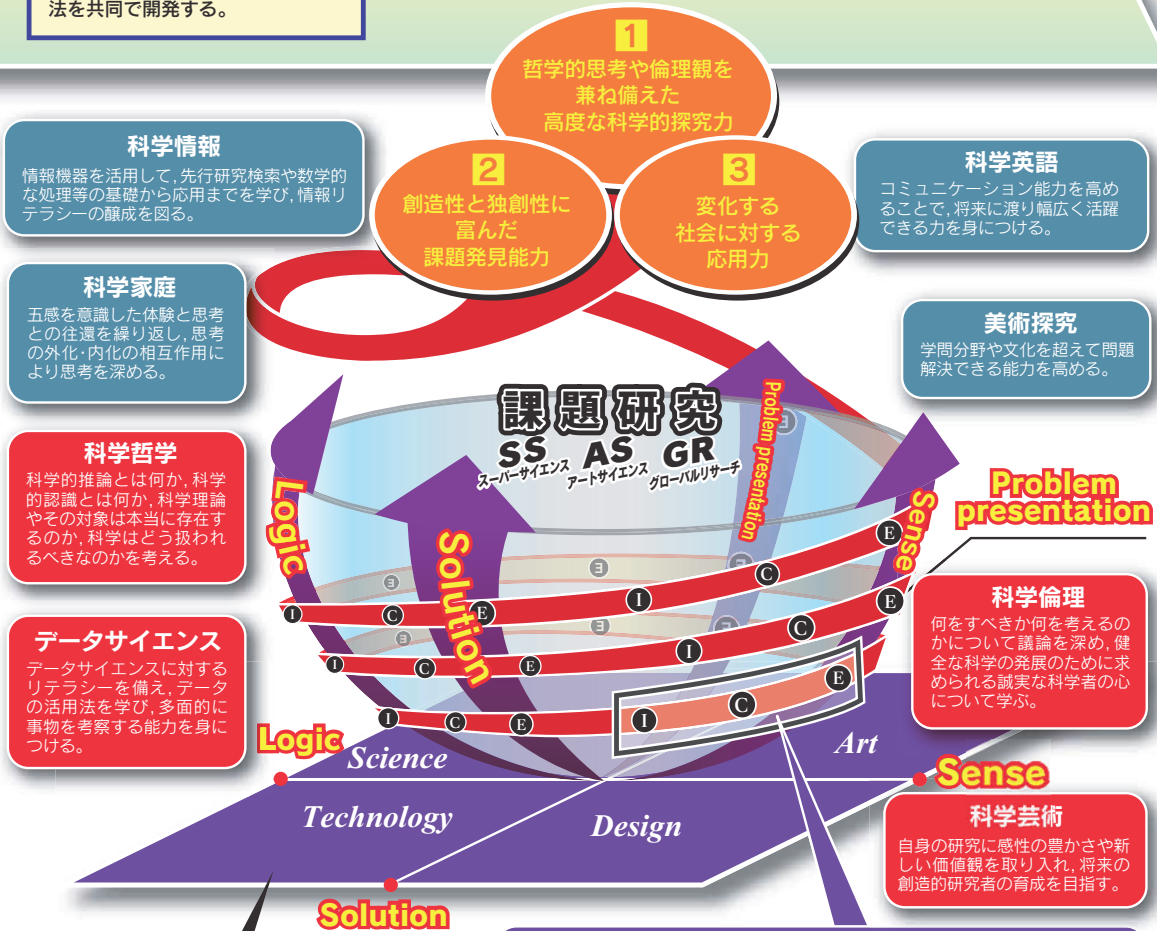
一般財団法人化学及血清療法研究所が推進している、「自然・健康・文化・サイエンス熊本構想(サイエンスアカデミア)」と連携し、SSH事業が地域創成へ貢献していく機会を創出する。また、本校の研究テーマ1とも密接に関わり、学びのSTEAM化を促す。

※「自然・健康・文化・サイエンス熊本構想(サイエンスアカデミア)」とは…熊本の現有資源(施設, 組織, 人材, 産官学民の力と知恵)を生かし、「熊本県民の全世代が集い、産業が集まっていく活き活き健康県にする。」というプロジェクト。

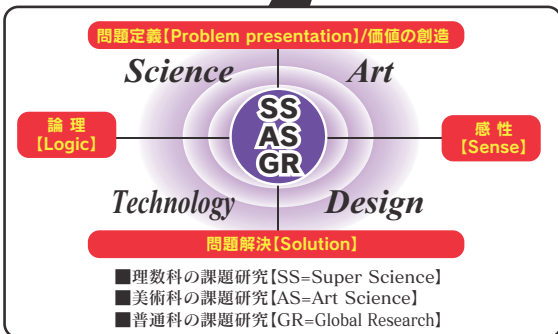
研究テーマ2は熊本サイエンスコンソーシアム(以下KSC)を中核とした研究となる

## 研究テーマ1

課題研究を中核とした独自のSTEAM教育システムの開発と普及



## 二高STEAMフィールド



## 二高ICEモデル — 成長の可視化 —

本校では、カナダで開発・実践されている「ICEモデル」をベースに、本校が育みたい資質・能力の評価や活動のプロセスを評価する方法として研究開発し、「二高ICEモデル」として活用しています。「二高ICEモデル」は新学習指導要領の3観点と親和性が高いことを実証しています。

ICEとは、Ideas(知識), Connections(つながり), Extensions(応用)の頭文字を取ったものです。

熊本県立第二高等学校ではIdeas(「習得」の段階), Connections(「活用」の段階), Extensions(「探究」の段階)として定義しました。

**IからCへ。CからEへ。そしてEから次のレベルへ。**

I→C→Eのフェーズのスパイラルアップは学びの深まりとともにさらに深化していきます。

基本となる資質・能力の広がりや、生徒自身の人間力を引き上げます。生徒の状況を正しく把握しながら、教師も発問のレベルを向上させなければなりません。

「I→C→E」のフェーズ(段階)の「E」に達したら  
次の「I→C→E」フェーズへとレベルアップしていきます